

泉・北泉周辺等 (旧グリーンパークを中心としたエリア) 整備・利活用計画



令和8年8月
南相馬市

整備・利活用計画-概要版-について

泉・北泉周辺等（旧グリーンパークを中心としたエリア）整備・利活用計画（本計画）には「全体版」「概要版」の２種類があります。全体版では、計画策定に向けた検討内容や事業内容、財政的な考え方、成果指標などを詳しくまとめています。

概要版は、

- ・なぜ、いま計画が必要なのか
- ・この地域をどのようなエリアにしていきたいのか
- ・これからどのように整え、使っていくのか

といった「目指す姿」や「計画の考え方」などを中心にまとめ、
わかりやすくお伝えするために作成しました。

この地域の未来を、市民の皆さまと共有し、ともに育てていくための一冊です。



目次

1. なぜ、いま計画が必要なのか
2. この計画が目指すもの
3. 泉・北泉周辺エリアの魅力
4. コンセプトと大切にする視点
5. これから整えていくこと
6. こんな使い方をイメージしています
7. 運営・費用・スケジュール

なぜ、いま計画が必要なのか

泉・北泉地域（本エリア）は、震災と原発事故により、沿岸部の施設などが大きな被害を受けました。キャンプ場や入浴施設は失われ、グリーンパークは長期間にわたり除去土壌の仮置場として使用されてきました。防災集団移転元地も十分な利活用がなされていない状況が続いています。

特にグリーンパークは、仮置場からの原状回復に加え、今後の活用方針や整備の具体化が求められています。こうした状況の中、原状回復に留まることなく、グリーンパークを中心とした地域全体の将来を考えるべく、新たな一歩を踏み出そうとしています。

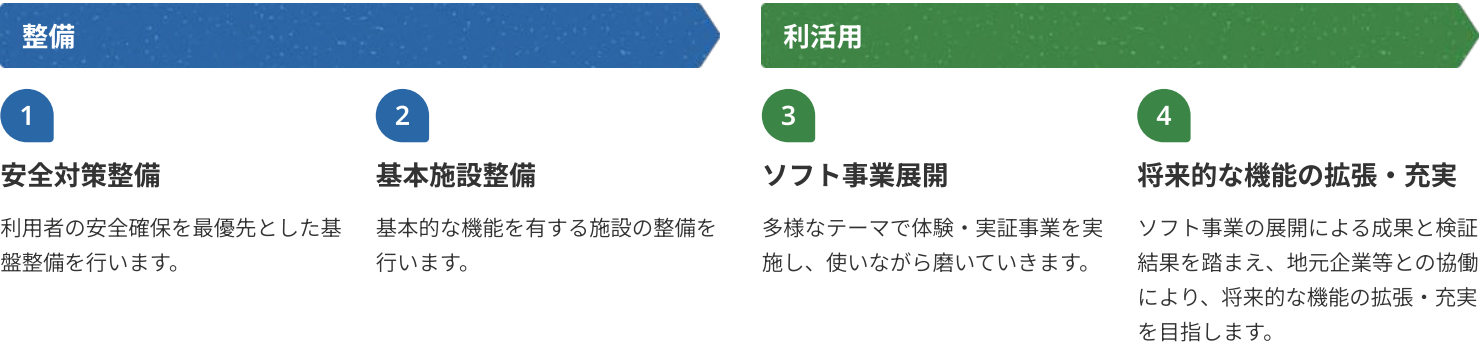
本エリアは、市街地からのアクセスがよく、海と緑に囲まれた豊かな自然環境を有しています。北泉海岸はサーフスポットとしても知られ、多くの人を惹きつける魅力を持っています。また、歴史・文化資源も充実していて、震災の記憶と教訓を伝える大切な場所でもあります。追悼や記憶の継承と、これからの利活用をどう両立するかについても大切な視点です。

こうした背景を踏まえ、市民や地域団体、企業など多様な主体が関わりながら、「使いながら価値を高め、育てていく場」としていくことを基本とし、本計画を策定しました。



この計画が目指すもの

本計画では、本エリア全体を一つのフィールドとして捉えます。グリーンパークは、本エリアで最大規模を誇る広大な自然を有した、中核となる拠点であり、市民が日常的にスポーツやリフレッシュに親しむ「起点」となる場です。北泉海浜総合公園や泉官衙遺跡史跡公園などの既存施設については、大規模な再整備を前提とするのではなく、それぞれの施設の機能や特性を生かしながら、グリーンパークを中心とした回遊や連携によって、エリア全体の魅力を高めていきます。



泉・北泉周辺地域の5つの魅力

豊かな自然環境と開放感

海や川、田畑などの自然が調和して広がっています。都市近郊では得られない「豊かな自然と開放感」に恵まれ、訪れる人々に安らぎと癒しをもたらします。

首都圏や仙台からの良好なアクセス

常磐自動車道やJR常磐線などの交通ネットワークにより、首都圏や仙台からの移動が容易であるという地理的優位性を生かし、観光や交流の拡大が期待できます。

サーフスポットとしての全国的知名度と交流資源

北泉海岸は全国有数のサーフスポットとして知られ、全日本サーフィン選手権大会など全国規模の大会が開催されています。その実績により全国的に認知されており、サーフィンを目的とした訪問者の施設利用が見込まれます。

周辺資源との連携による広がり

北泉海浜総合公園や泉官衙遺跡史跡公園など、周辺の多様な地域資源との連携が可能です。周辺施設と連携し、歴史・文化・自然体験をつなげることで、単独の施設整備にとどまらない広がりを持っています。

震災を乗り越えた地域の思いと歩み

震災という困難を乗り越えてきた歴史と人々の想いが、この地域の根底にあります。その経験や想いは、本市特有の地域文化や価値として、国内外の人々の共感を呼び、新たな交流を生み出す契機となります。

「大切にしたい考え方（コンセプト）」

みんなで育てる

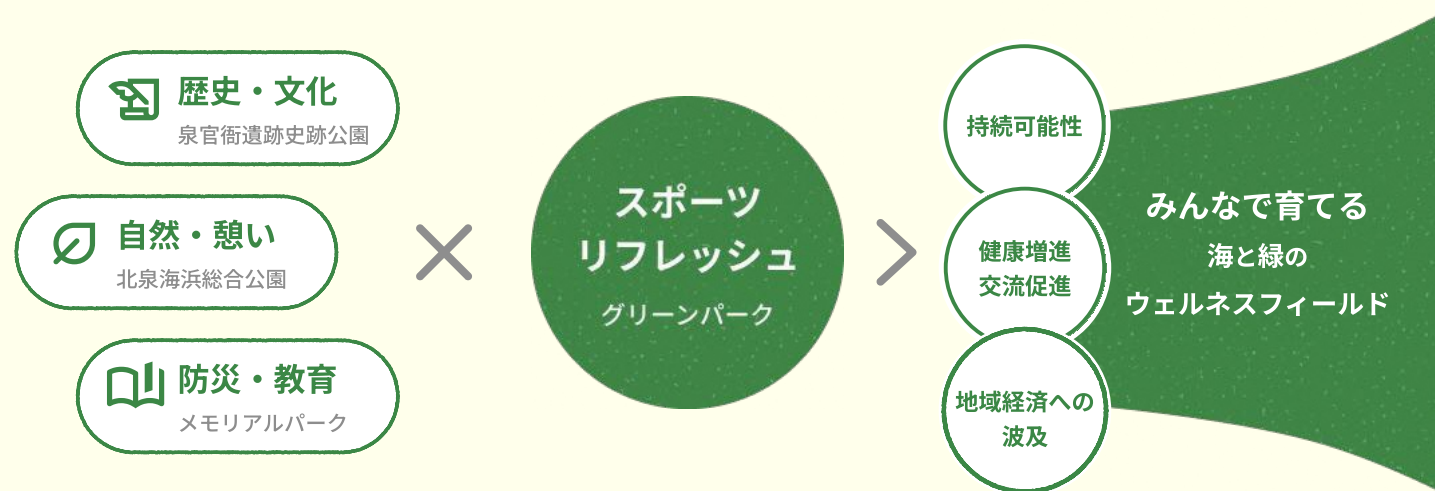
海と緑のウェルネスフィールド

本エリアを、海と緑を活かした一体的なフィールドとして育てていきます。市民・地域団体・企業・市が関わりながら、スポーツや健康づくり、憩い、交流など、多様な活動が重なり合う場所を目指します。

「ウェルネス」とは、心や体の健康だけではなく、人とのつながりや自然環境との調和も含めて、

よりよく生きるためのプロセスを指しています。

本計画では、グリーンパークや北泉海浜総合公園、泉官衙遺跡史跡公園などの機能や特性、ポテンシャルを生かして、スポーツや運動、自然とのふれあい、交流、学びを通じて、日々の暮らしの質を高め、生涯にわたっていきいきと過ごせる状態を育てていきます。



大切に 3つの視点

スポーツ・リフレッシュを核とした利活用

スケートボードやグラウンドゴルフ、ウォーキングなど、幅広い世代が参加できる活動を通じて、日常的に体を動かす機会と交流を広げていきます。

あわせて、海や緑といった自然環境を生かしたリフレッシュの取組により、心身の回復や憩いの場としての機能も高めます。

防災・教育・文化の視点を重ねた利活用

防災機能や震災の記憶、歴史・文化資源を尊重し、防災学習や体験活動、歴史・文化学習などを通じて、震災の教訓や地域の成り立ちを学ぶ機会を創出するとともに、メモリアルパークとしての役割を大切にします。

日常の利用の中で防災・教育・文化の視点が自然に育まれる場を目指します。

交流人口の拡大と地域経済への波及を意識した利活用

地域団体や企業との連携を進めるとともに、市外からの来訪者を増やす体験事業やフェスなどの展開を図ります。

交流人口の拡大を通じて地域経済への波及効果を生み出し、市の財政負担に過度に依存しない持続可能な運営につなげていきます。

これから整えていくこと

まずは、安全に安心して利用できる環境づくりを優先します。調整池の整備など、利用者の安全確保を最優先とした整備を行います。

そのうえで、芝生広場や多目的広場、園路やウォーキングルートを整備し、散策や軽い運動ができる空間をつくります。整った空間を生かし、スケートボードやグラウンドゴルフ、キャンプなどの利用を展開していきます。



安全対策整備

調整池や法面工事、防護柵、避難路や舗装道路の整備など、利用者の安全確保を最優先とした基盤を整えます。



調整池



公園法面



防護柵



避難路



基本施設整備

芝生広場や多目的広場、駐車場、管理棟、トイレ・シャワーなどの基本的な機能を有する施設を整備し、多世代が安心して利用できる環境を整えます。



芝生広場



ウォーキングルート



多目的広場



管理棟



駐車場



トイレ・シャワー

こんな使い方をイメージしています

本エリアでは、市民の日常利用を基本としながら、休日や特別な機会には市外・県外からの来訪者も交え、時間帯や季節に応じて様々な活動が重なり合うような使い方を考えています。



平日の過ごし方

市民が気軽に立ち寄り、無理なく体を動かし、自然の中で過ごす「日常の居場所」

- ウォーキングやランニング
- グラウンドゴルフ
- スケートボード
- 芝生広場での遊びや散策
- ヨガ、健康体操
- 花壇づくりや植栽活動

休日の過ごし方

近隣市町村からの来訪者も訪れ、イベントや体験を通じて交流が生まれる場所

- スポーツ体験会や小規模大会
- マルシェやキッチンカー
- 自然探索体験
- キャンプ利用
- サイクリングやウォーキングイベント
- 季節の花や景観を楽しむ散策

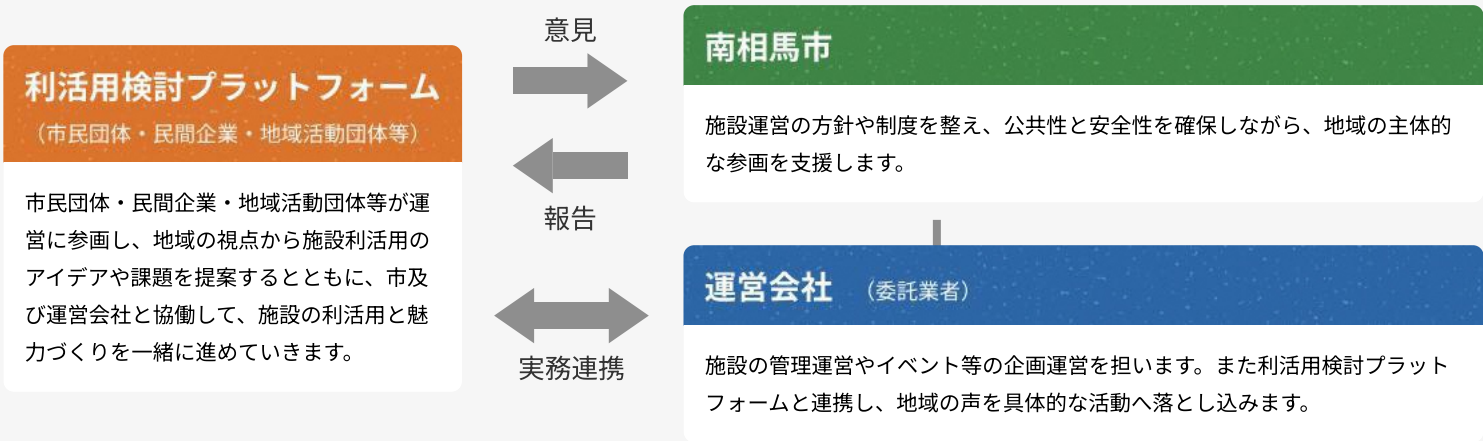
特別な機会の過ごし方

市外・県外からの来訪者を迎え、大会やフェス、地域資源と連動した研修などを通じた交流と賑わいの場

- サーフィン大会やスポーツ合宿
- 企業や大学向け研修プログラム
- 防災学習などの防災教育プログラム
- 海や馬、食の体験イベント
- フェスや広域イベント

みんなで支える運営のかたち

整備後は、本エリアを有効に利用していただくために、官民が連携した運営体制を構築します。
当初は、市が一定の役割を担いながら安全性と基盤を整え、その後、地域団体や地元企業などの参画を広げていきます。
将来的には、地域が主体となって運営を担う持続的な体制づくりを目指します。
また、イベントや体験プログラムなどを通じて利用ニーズや収益性を検証しながら、安定した運営につながる仕組みを整えていきます。企業・団体との連携や協賛など、多様な関わり方も視野に入れ、継続的な運営を図ります。



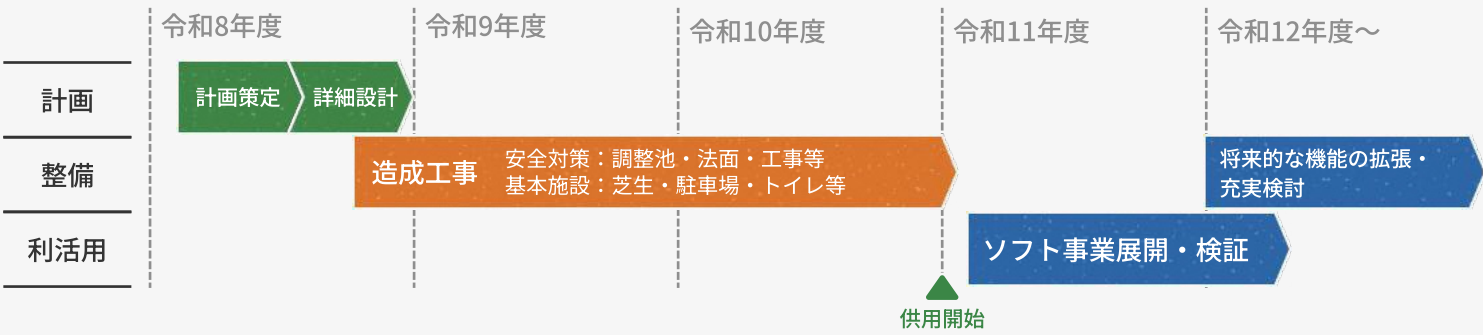
計画を進めるための費用

本計画では、まず安全対策や基盤整備を優先し、そのうえで、利活用の広がりにあわせて機能の拡張や内容の充実を進めていく考えです。
現時点で想定している概算事業費は約25億円です。
この金額はグリーンパークを中心としたエリアの整備費用であり、本エリア周辺の既存施設や市道などの整備費用は

含んでいません。費用に係る財源については、国・県の交付金等を最大限に活用することを基本とし、市の財政負担の軽減を図ります。
なお、今後の検討状況や社会情勢の変化、利活用の方向性などを踏まえながら、必要に応じて内容や規模を見直していきます。

いつから使えるようになるのか

本エリアは令和11年度の供用開始を目指しています。
供用開始後も、それで完成というわけではなく、実際に使われる中で出てくる可能性や課題を次の展開につなげながら、将来的な機能の拡張や内容の充実を進めていきます。



最後に

このエリアは、これから利用される皆さまや関わってくださる皆さまとともに育ていく場所です。皆さまの参加によって形づくられていきます。日常の利用からイベントや新しい挑戦まで、ともに、このエリアの未来を育てていきましょう。



～将来像イメージ～

海と緑がつながる広がりの中で、人々が思い思いに活動する姿を描いています。芝生でくつろぐ人、ウォーキングを楽しむ人、スポーツに取り組む若者、イベントでにぎわう様子など、本計画区域での利活用の広がり表現しています。

※図上の施設・利活用は現時点のイメージです。



発行日 令和8年8月

発行者 南相馬市

担当課 建設部都市計画課街路公園係
〒975-8686 福島県南相馬市原町区本町二丁目27番地
TEL 0244-24-5251